

令和3年度事業評価採点表 NO. 1

| | | 1. 地域の経済動向調査に関すること | | 2. 経営状況の分析に関すること | | 3. 事業計画策定支援に関すること | | 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること | | 5. 需要動向調査に関すること | | 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること | |
|------|-----|--------------------|---|------------------|--|-------------------|--|-----------------------|---|-----------------|---|--------------------------|---|
| NO. | 委員名 | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント |
| 1 | | C | 小規模企業景気動向調査や消費マインド調査など、3年連続で未実施のものがある。コロナウイルス感染症の影響はあるとしても、そうした状況下でも実施方法を工夫し、実施に向け尽力されたい。又、調査・分析を行ったものについては、会報やホームページでの情報提供をしっかりと行って頂きたい。 | B | 巡回・窓口相談件数は目標の3倍を超えており、その結果等をデータベース化し、組織内で情報を共有することにより組織的な支援が可能となっている点は評価したい。ただ、経営問診票による経営把握事業数等、目標数を大きく下回っている事業もあるため、目標達成に向けた取り組みのさらなる強化を期待する。 | B | 事業計画策定完了件数が目標数(55社)の2倍を超える実績(111社)となった点は、経営指導員の様々な支援の成果として、評価できる。しかし、昨年度同様、支援セミナーや個別相談会が未実施となっており、コロナ禍であっても、オンライン等の活用等による開催に向けた努力を行って頂きたい。 | A | 全ての支援事業項目において目標数値を上回る実績となっており、組織的な伴走型支援によるフォローアップに努めた成果であると高く評価する。 | C | 業種別・品目別の需要動向調査については、目標数値を上回る実績を上げているものの、それ以外の支援事業項目については、未実施又は目標数値を下回っている。コロナ禍であってもオンライン等の積極的な活用で尽力して頂きたい。 | B | コロナ禍で即売会や物産展、アンテナショップ参加が未実施となったとの事であるが、そうした中でもITを活用した販路開拓事業、オンライン商談成約のための「バイヤーとの共創商品」創出事業を展開するなど、努力の跡が伺える。今後とも知恵と工夫をこらして目標の達成に向け、尽力して頂きたい。 |
| 2 | | C | 小規模企業景気動向調査や消費マインド調査はなぜ行われなかったのか。必要がなかったからか。 | B | 巡回・窓口相談で著しい達成度が見られる。これだけ相談を受けることで、想定してなかったような情報を得られたり、気づきなどがあつたのではないかな。 | A | 想定していた手法そのものは未実施であるのに「結果」が出ている。ということは、手法が有効なものと言えないのではないかな。なぜこのような結果が出たのか？ | A | 計画に沿った活動により実績が得られている。経営指導員の適切な役割分担や外部専門家の活用などの工夫が伺える。 | C | 想定していた全体の流れの30～40%程度しかできていないように感じるがそれでも事業者にとって有益と言えるのか。 | C | リアルな商談会が出来ていないため。 |
| 3 | | C | 昨年に引き続き小規模企業景気動向調査、消費マインド調査が未実施となっており、調査方法を抜本的に見直し、現在のマンパワーで行える方法を考えるべきではないか。 | B | 窓口相談の突出した件数は補助金支援金申請対応によるものだが、補助金支援金申請を今後の経営改善につなげるよう経営分析等につなげることをしなければ、ただのばらまき政策になりかねない。先を見据えた経営支援をお願いしたい。 | C | 事業計画策定が目標件数を大きく上回っており、直実に事業を進めている。今後はこれが単に補助金獲得のための計画とならないよう支援を続けていただきたい。 | A | すべての数値が目標値を上回っている。クラウドを活用したソフトウェア、経営基幹システム(BIZミル)によって、経営指導員同士の情報共有が可能になるなど、DXの効果も出ている。今後さらにDXによる効率化に取り組んでもらいたい。 | C | 1と同様に調査業務についてはデジタル技術等を活用して、今後調査方法の抜本的な見直しの必要がある。反応の高い事業と関連づけるなどの方法も考えられないか。 | C | コロナ禍で商談会が軒並み中止になったとのことだが、ITを活用した販路開拓セミナーには、一定程度参加があり、売上増加事業所が目標を大きく上回っている。開拓可能性は大いにあるので、今後もこの分野への積極的に取り組みを期待する。 |
| 4 | | C | コロナ禍で優先順位の低下はやむを得ないですが、会報等の活用による情報提供活動は可能と思われました。 | B | コロナ禍でのセミナー開催・及び集客実績は評価点と考えています。担当者分析の通り、今後の開催方法等は安全性と効果性を両立させる手法での検討が必要と思われまます。 | C | | A | 関係機関との緊密な連携による事業者支援が成果を挙げていると考えます。 | C | | C | |
| 5 | | C | 新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの調査の実施が未達となっている。地域の経済動向に関する情報は、新型コロナウイルス感染症禍において傷んでいる個々の事業所にとって、重要な情報となり得るので、極力発信ができるように今後を期待する。 | B | 各種補助金や支援策の募集が行われたため、相談件数が増加したようであるが、そのような相談に対し経営状況分析の支援をもって対応してきたことは評価できる。マンパワーの問題もあると思うが、さらにオンラインの利用などを増加させ、より効率的に、事業所が経営状況を把握できるように工夫して欲しい。 | B | 事業計画策定完了件数は、目標の2倍となり評価できる。事業計画策定に導くためのセミナーや個別相談会の実施ができていないが、オンラインの活用などで、コロナ禍においても、情報を届ける努力が今後望まれる。 | A | 事業計画策定後の実施支援については、目標を達成していて好ましい状況である。事業計画が絵に描いた餅にならないためにもフォローアップをして結果に結び付けることは重要であり、引き続きの実施を期待する。 | B | 業種別・品目別の需要動向調査が目標を満たしている。その他の調査の実施は、コロナ禍で対面の聞き取りができなかったこともあり未実施になったと想像される。次年度以降、必要とされる需要動向調査の実施に向け、オンラインの活用などを期待する。 | C | コロナ禍で、対面での商談会や販売会への参加が難しい中、オンラインでデジタル化を図った販路開拓を支援するセミナーを実施していることは評価できる。今後、このような支援を増大させ、対面での活動が制限される中でも、多くの事業所が、オンラインを使った販路開拓に取り組む環境づくりの支援に期待する。 |
| 総合評価 | | C | C-5名 | B | B-5名 | B | A-1名、B-2名、C-2名 | A | A-5名 | C | B-1名、C-4名 | C | B-1名、C-4名 |

令和3年度事業評価採点表 NO. 2

| | | 地域の活性化に資する取り組み | | 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること | | 経営指導員等の支援能力の向上の仕組み | | 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制 | |
|------|-----|----------------|--|----------------------------------|--|--------------------|--|--------------------|---|
| NO. | 委員名 | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント |
| 1 | | C | 3年連続で未実施の事業が続いており、相手方との緊密な連携を図り、着実な実施につなげて頂きたい。 | B | 令和2年度と同一の会議に参加し、各支援団体との情報交換を行ったことは認められる。今後も組織間でのノウハウの共有等、更なる連携強化を期待する。 | B | 令和2年度と同様、オンライン研修形式を積極的に活用し、支援能力の向上に取り組んでいる。 | B | クラウドを活用した基幹業務管理システムの活用により、個社支援の進捗状況を一元管理し、経営支援力が向上するとともに伴走型支援に必要な「情報の共有・蓄積の仕組み化」が構築されつつあり、今後、さらなる組織力の充実・強化が期待できる。 |
| 2 | | C | 地元大学での産学連携事業の未実施の理由はコロナのためか？オンラインではできなかったのか？ | B | | B | | B | |
| 3 | | C | 昨年に引き続き徳島市との共催事業以外は未実施となっている。サテライト授業の開催や移住交流センターとの連携事業などは、コロナ禍でこそ取り組むべき事業と考えられるので、実現に向けて取り組みを進めていただきたい。 | B | 会議による情報交換が主なようだが、今後はクラウドなどを使った情報共有についても取り組まれてはどうか。 | B | 引き続き支援ノウハウの共有とスキルアップに取り組んでいただきたい。 | B | |
| 4 | | C | | B | 他の支援機関との連携や情報交換は、会議等の形式に限らず、記載事項以外にも随時なされていると思いますので、連携実績は記録の上幅広く取り上げて良いと考えます。 | B | 資質向上等に関する取組等については適切に実施されていると考えます。 | C | |
| 5 | | C | コロナ禍において、地域活性化のための活動はより大事になってくる。コロナ禍で連携事業を実施しにくい点があることは理解できるが、学生へのアントレプレナーシップ熟成の支援など、良い取り組み計画もあるので、今後の実施に期待する。 | B | コロナ禍で、連携会議の開催が行われないなどの状況は理解できる。今後、アフターコロナを見据えて、各支援機関の連携は重要になってくるので、会議体だけに頼らず、個々の連携も含めて、連携の強化を期待する。 | A | 経営指導員等の支援能力向上への取組は概ねできていると捉えられる。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響の他、ウクライナの状況、輸入や物価に関することなど不確定要素が多い中、更なる支援能力向上が必要となる。更なる研鑽を期待する。 | A | 経営指導員が情報を共有できるようなデータベース化が促進されている。支援に関しては、個々の事業所の特性や課題に応じた個別対応が大事になるので、共有と同時に、個々の対応力を磨くことを期待する。 |
| 総合評価 | | C | C-5名 | B | B-5名 | B | A-1名、B-4名 | B | A-1名、B-3名、C-1名 |